

【抗凝固薬・抗血小板薬継続下での鼠径部ヘルニア手術のリスク評価】

研究の概要：

鼠径部ヘルニア手術の対象者は高齢者が多く、既往症のために抗凝固薬や抗血小板薬を内服している患者も多い。当科ではこれらの薬剤を継続のまま手術の方針としているが、それによる合併症や偶発症のリスク評価を行うことを目的とする。

研究対象：

2012年1月1日から2019年09月30日までに、相澤病院外科にて、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニアの予定手術を受けられた患者さんの診療録を対象とします。

研究の意義：

抗凝固薬・抗血小板薬を継続のまま鼠径部ヘルニア手術を行うことにより、出血性合併症が増えているか、また術後の塞栓症（心筋梗塞、脳梗塞など）の予防がなされているかを明らかにすることは、臨床上有用であると考えられます。

研究の目的：

本研究は、抗凝固薬・抗血小板薬を継続のまま鼠径部ヘルニア手術を受けられた患者さんの治療成績を検証することを目的としています。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報（患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過）を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては担当者がこれを行います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用で別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：小田切 範晃

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 外科センター 小田切 範晃

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763